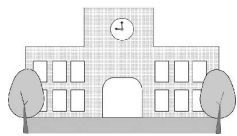


貸借対照表

貸借対照表とは、会計年度末の町の保有している資産（表の左側）と、その資産がどのような財源（表の右側）でまかなわれているのかを一目で分かるようにした財務書類です。

資産の部 (これまで積み上げてきた資産)

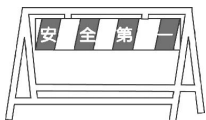
●事業用の資産



108
億円

土地・建物・立木など

●産業や生活の基盤となる資産



175
億円

道路・橋梁・水道など

●資金



1.7
億円 ▲

●その他



42.3
億円

基金・貸付金など

資産の
合計

327
億円

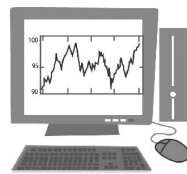
負債の部 (将来負担する額)

【地方債】



82
億円

【その他】



8
億円

リースしている資産に対する
支払残高や職員に対する手当
などの支払予定額など

純資産の部 (町の正味財産)

237
億円

資産から負債を引いた額

負債及び
純資産の
合計

327
億円

矢印の金額は一致します。
▲はマイナスを表します。

財務分析

財務書類の分析には、さまざまな比率がありますが、主なものを公表いたします。

①純資産比率 73%

総資産に占める純資産の割合で、将来世代にも利用可能な資産を残したことになります。

②負債比率 38%

純資産に対する負債の割合を表し、この比率が低いほど財政状況が健全であることを示します。

③資産老朽化比率 61%

建物や工作物など耐用年数のある資産について、取得してからどのくらい経過しているか各資産の老朽化の度合いを表したものです。

④住民一人当たりの資産、負債、純行政コスト

資産	1,089万円
負債	299万円
純行政コスト	173万円

⑤社会資本形成の世代間比率 34%

現在整備されている社会資本（土地、建物、道路など）を、地方債などの負債によってどのくらい調達したかを示す比率です。この比率が低いほど将来世代への負担が残らないことを表し、財政状況が健全であるといえます。